

第4回 YERP 研究会

日時：平成22年5月14日（金）14:00 - 17:00

場所：ホリデイ・イン水戸 会議室（JR水戸駅南口 徒歩5分）

企画：板垣 俊（東京大学）・宮腰 誠（国立長寿医療研究センター）

第4回 YERP 研究会は以下のような2部構成で開催いたします。

- 1) ERP のなりたちと生理機序（14:00~15:00）
- 2) ERP の基礎についての読書会（15:10~16:45）

14:00~14:30

脳波・事象関連電位の発生機序と生理学的意味

松本 敦（自然科学研究機構 生理学研究所）

atsumat@nips.ac.jp

事象関連電位は脳波の低周波数帯域活動の特殊な形である。脳波における低周波数帯域の活動が神経細胞においてどのような役割を果たしているのかは最近の精力的な研究により徐々に明らかになってきている。本発表では脳波の生理学的な発生機序を解説し、脳波の活動の意味を概観する。ERP データの解釈において、生理学的な観点から考察を行うことにより、オリジナリティーの高い考察が行われることに役立つと考えられる。

14:30~15:00

「私」は位相がそろってない、とはどういうことか

宮腰 誠（国立長寿医療研究センター）

mataothefifth@yahoo.co.jp

両手を開いてあわせてみる。指と指がぴったり重なっているとき、両手の指位相は揃っている。次に手を少しずつずらしてみる。指と指がぴったりとはまり込み、まるで10本指の手のようになったとき、指位相は180度ずれている。その半分ずれた状態なら90度、そのまた半分なら45度。このように位相とはズレを表す単位である。ERPは刺激に対して脳波の位相が毎試行同じになる結果生じると考えられている。本発表では、視覚的自己認知が誘発するN250というERP成分が、位相が相対的に揃わなくなる結果生じるとする知見を報告する。「私」は位相がそろってない、とはどういうことか。その生理学的な背景を考察し、ERP成分の解釈への応用を試みる。

Luck, S. (2005) An Introduction to the Event-Related Potential Technique. MIT Press.
上記の本から次の 2 章を読みます。

15:10~15:45

Chapter 1 An Introduction to Event-Related Potentials and Their Neural Origins

発表者：板垣 俊（東京大学）
itagaki@ardebeg.c.u-tokyo.ac.jp

15:45~16:20

Chapter 2 The Design and Interpretation of ERP Experiments

発表者：木村 健太（名古屋大学）
itagaki@ardebeg.c.u-tokyo.ac.jp

16:20~16:45

自由討論

<読書会の進め方>

- 発表者がそれぞれの章の概要を 30 分程度で紹介します。
そのため、細かい内容は省いて進む場合がありますので、ご了承ください。細部につきましては、各章の全訳をご覧ください。
- 1 章と 2 章の間に若干時間をとります。
1 章の内容で、「ここは参加者全員で共有したい」というポイントがありましたら、ご指摘ください。2 章の発表後も同様にいたします。
- 自由討論では、特に今後 ERP 研究に取り組みたい方の発現を期待しています。
 - ・ どのような点が今後、各自の研究に生かせるか？
 - ・ 勘違いしやすいのはどのような点か？
 - ・ 実験を行うときの工夫点は？ など

※ 当日使われたパワーポイントや配布された和訳原稿に興味がある方は、発表者に直接お問い合わせください。(2010年5月18日追記)